

シグマ研究委員会  
核融合核データ・ワーキング・グループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 12 月 15 日 (火) 13:30 ~ 17:30  
場 所 原研東海研 研 2 - 222 号室  
出 席 者 神田幸則(九大), 小林捷平(京大炉), 真木紘一(日立),  
田中茂也, 関 泰, 中島 豊, 浅見哲夫(原研)

配布資料

Preliminary Survey on the Availability and Quality of Evaluated  
Nuclear Data Important for INTOR Design Calculations  
(V - Pronyaev, J. J. Schmidt)

議 事

1. 一般報告(浅見)

最近の運営委員会での討議事項の概要等について報告があった。

2. INTOR用核データについて(浅見)

上記の配布資料により, INTOR workshopで行った INTOR project  
で必要な核データの調査, とくに使用できる評価済み核データ・ライブラ  
リーや核データの現状調査について説明があり, 討議を行った。

3. 来年度計画

57年度より核データ専門部会内のワーキング・グループの編成を大巾に  
改組して, JENDL-3のデータ評価作業を中心としたワーキング・グルー  
プ編成になることが予定されているのに当り, 当ワーキング・グループは  
どうするかについて議論を行った。その結果次のような意見が出た。

- ・ データ評価作業は新編成のWGでやるとしても, 核融合関係のグルー  
プとシグマ委との橋渡しの役目をするWGが必要である。

- INTOR, FNS, OKTAVIAN 等と関連を保ってゆくためにこれら関係グループとの接点としての役割をもってこのWGを存続させる必要がある。

- 核融合核データの問題点調査, 核融合ベンチマークテストなどを行うWGとして存続させたらどうか, 等々

この結果, 12月18日の核データ専門部会内WGリーダーの会合には, 核融合核データWGは核融合関係者との橋渡しの機能を中心に核融合核データの問題点を調査するWGとして存続したいことを報告することにした。また, このWGでは評価作業は行わず, このWGメンバーで評価を担当する人は, 新たに編成されるWGの方で作業をすることにした。

- ・ これらの議論の課程で, 核融合炉関係の誘導放射能計算の現状についての話題に及び, 次回にTHIDAシステムについて関氏に話をしてもらうことにした。

#### 4. その他

FNS実験解析に関連して, 実験と計算の不一致の原因として ${}^7\text{Li}$ のデータを検討する必要があるとの指摘があり, 次回に詳しく検討することにした。

次回は1月20日(水)又は1月27日(水)に行う予定とし, 次のような議題とすることにした。

1. 来年度計画の検討
2. プロットのまとめ方
3.  ${}^7\text{Li}$ データの検討
4. THIDAの概要